宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 23 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,800 ドル
(S&P500) 4600～6050

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 17,600～22,000
(ナスダック総合) 15,700～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～150.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～104.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均

【週足 エリオット波動分析】

日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。

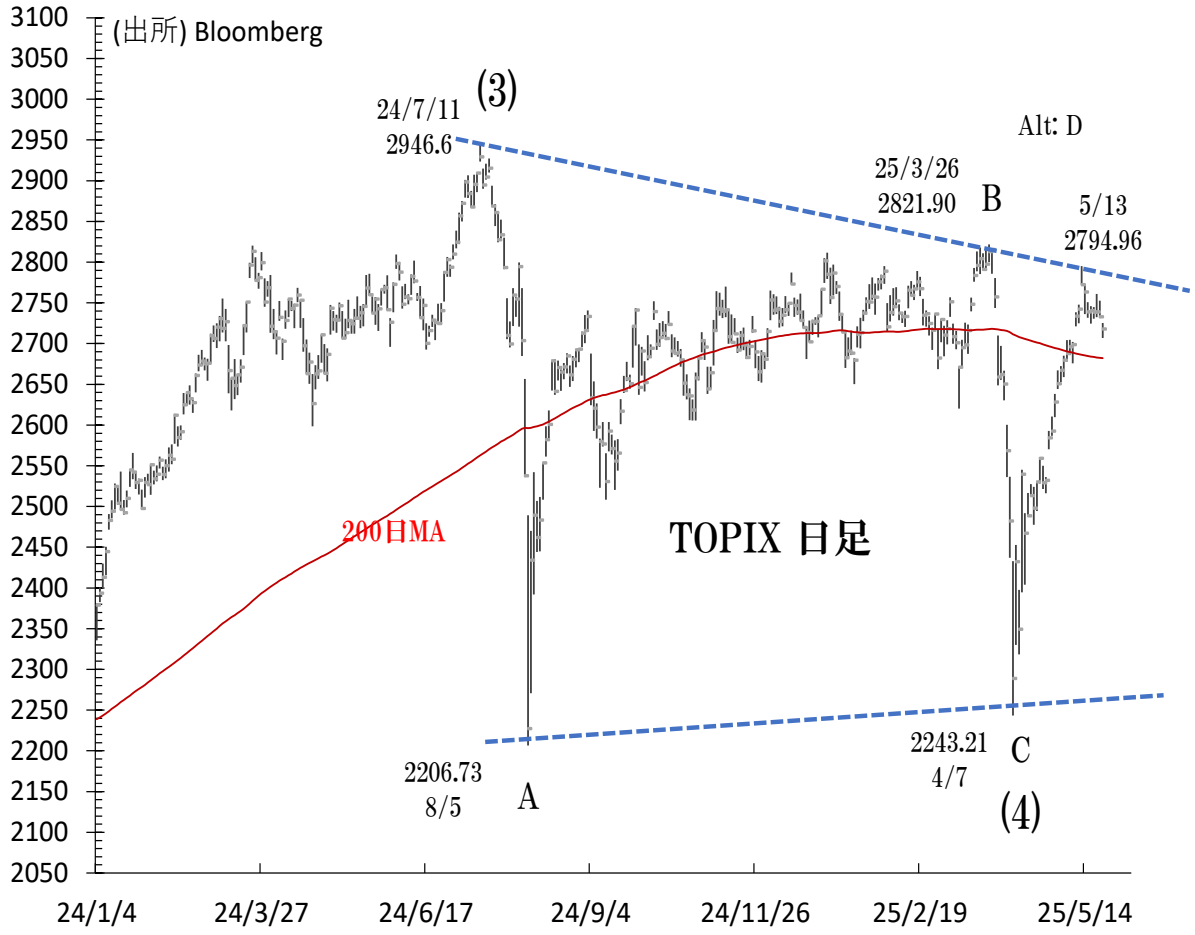
順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値（42,426.77 円）を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

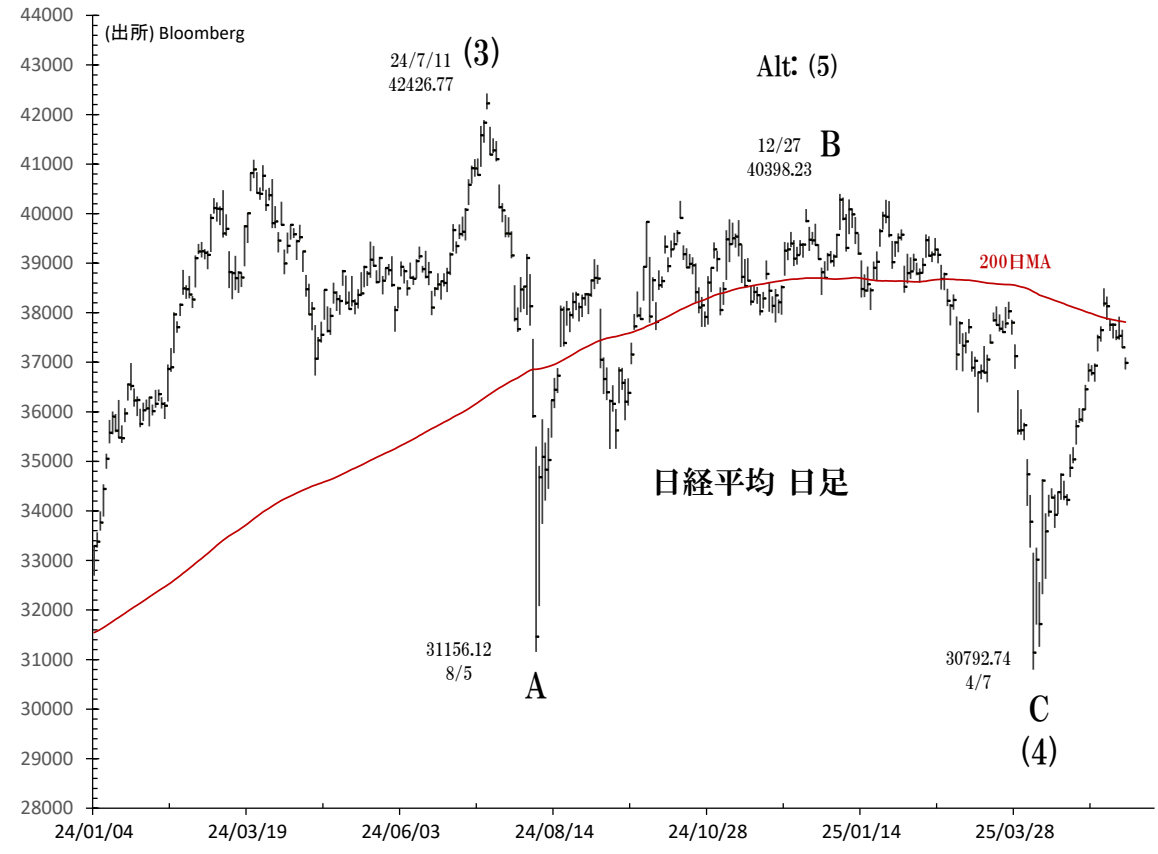
第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底（16358.19 円）からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

ハイテク、自動車、鉄鋼、海運など「トランプ関税」の影響が大きい企業を中心に、今後の業績不透明感が強まっています。遠からず国内景気の後退入りも想定されます。こういった状況からみると、第(5)波の賞味期限はそれほど長くならず、おそらく数カ月～半年という期間にとどまるでしょう。

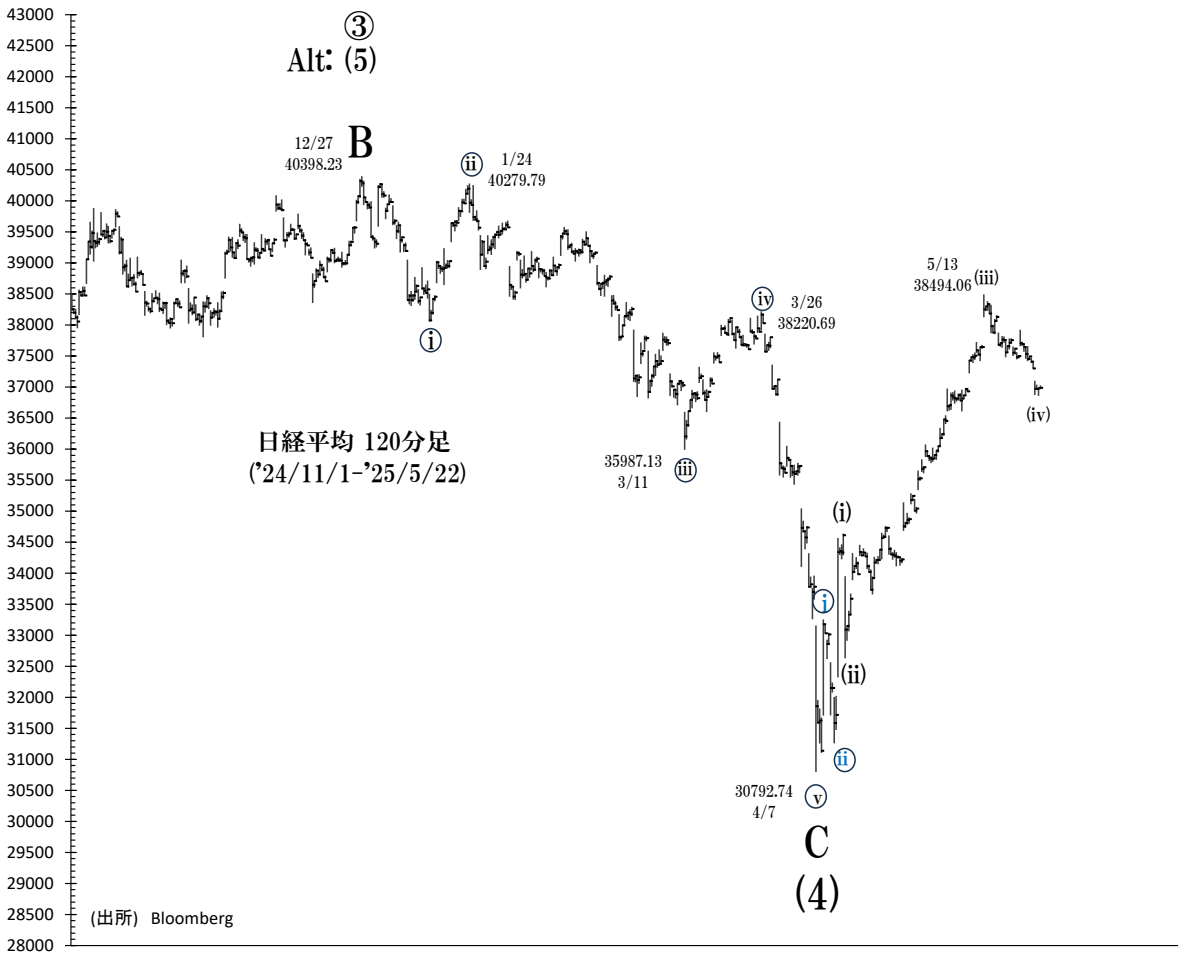
もっとも当面は、①旺盛な自社株買い、②円高傾向を受けての海外マネー流入、などが第(5)波を支援する展開が期待されます。5 月第 3 週(12～16 日)に海外投資家は、日本株を 6722 億円（現物先物の合計）買い越しました。買い越しは 5 週連続で、この間の買い越し額は 2 兆 3438 億円に膨らんでいます。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)から、インターミディエイト級第(5)波による上昇が進行中とみられます。

TOPIX が 13 連騰をはたした期間(4 月 22 日～5 月 13 日)には―このとき欧州とアジアの投資家の買いが入ってきたという観測があります―日経平均も切れ目なく上昇しています。この強い上昇は、何らかのディグリーにおける「第 3 波」とみることができます。

上チャートに表示したように、5 月 13 日に付けた 38,494 円を仮にミヌエット級の第(iii)波ピークとすれば、そこからの反落は第(iv)波に相当します(それは保ち合い相場かもしれません)。この見方が正しければ、遠からず第(v)波による上昇となり、38,494 を上回る展開が予想されます。

(オルタナティブ・カウント)

30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

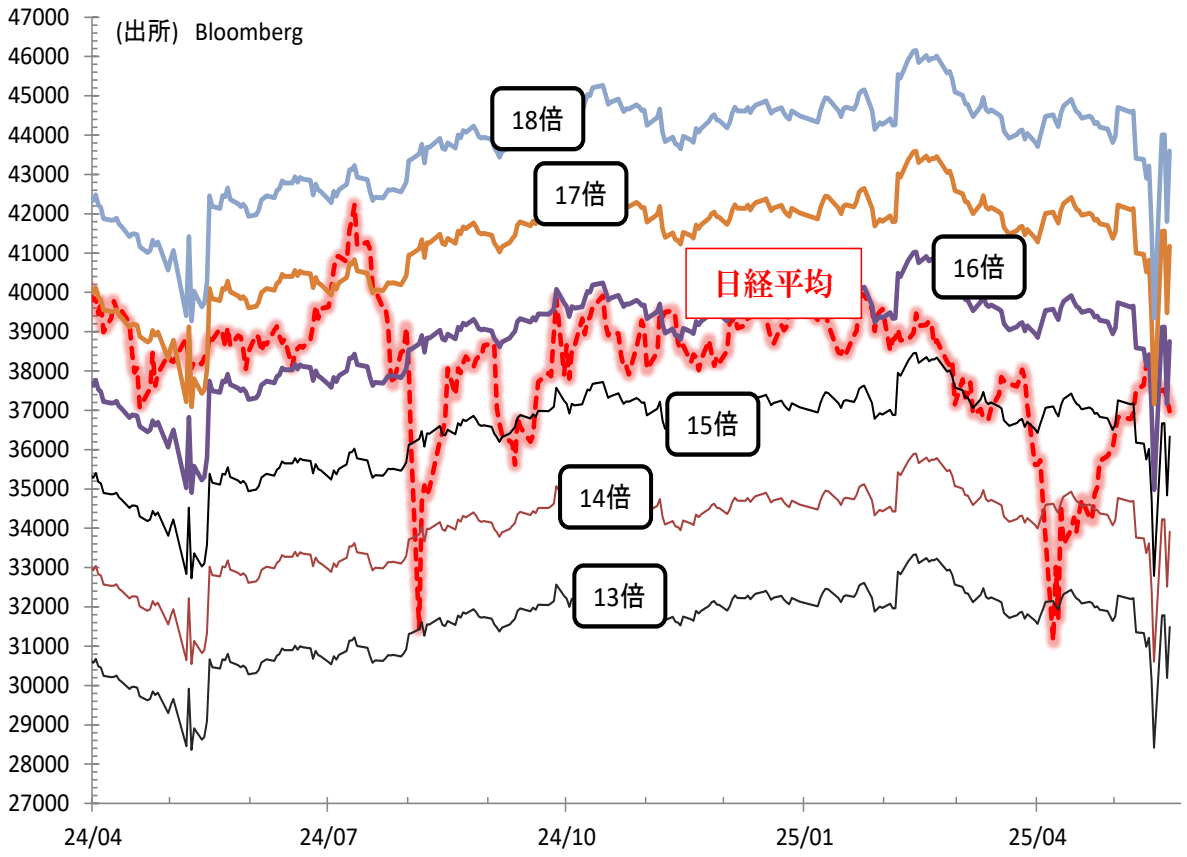
24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり―"truncated fifth"(短縮された 5 波)―プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[予想 PER 別の日経平均水準]

5 月 22 日の日経平均予想 PER は 15.27 倍・予想 EPS は 2422 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

NY ダウ・S&P500

【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

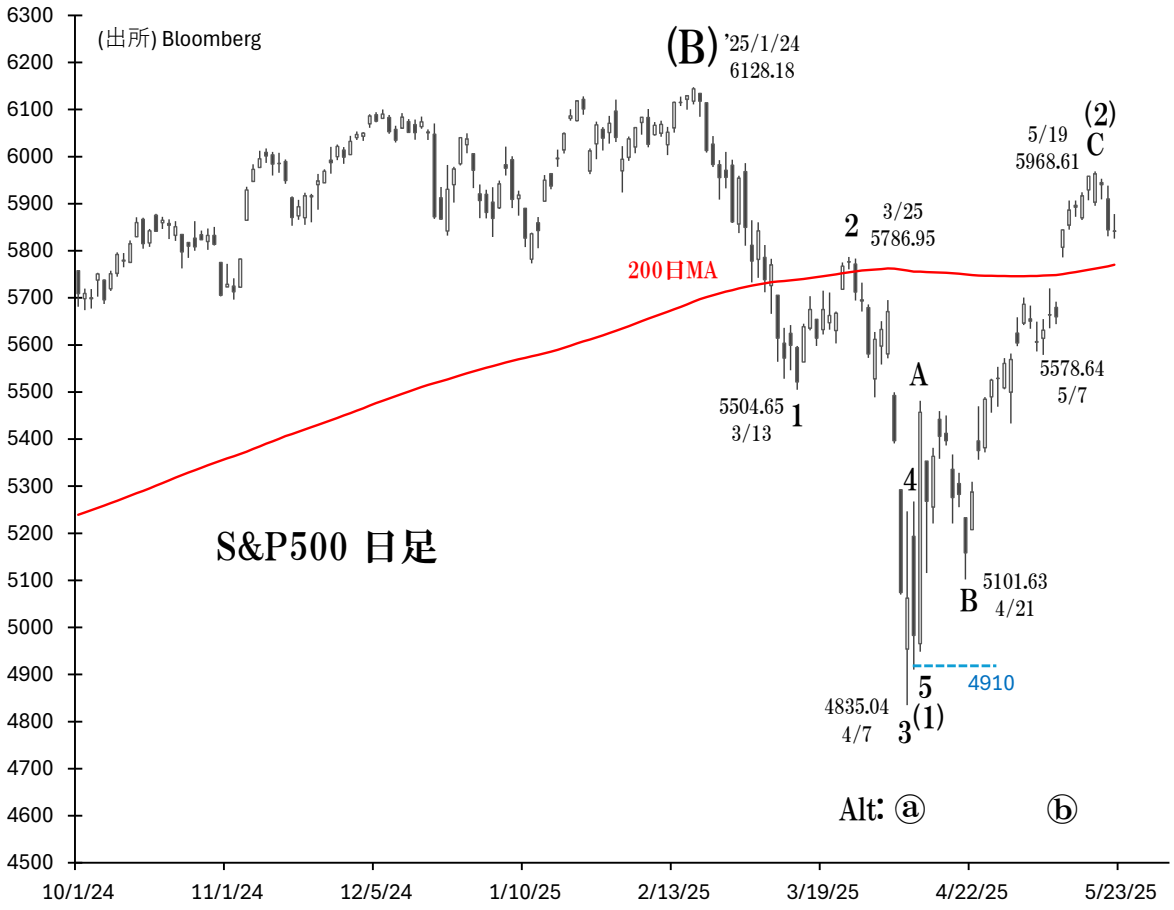
36,611 ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドに当たります。

5 月 19 日高値（42,842 ドル）は、第(1)波中レッサー・ディグリー第 4 波高値[42,821 ドル](3/26)に合致しており、第(2)波として合理的な上値メドを満たしたことになります。

5 月 22 日は一時 41,714 ドルまで下げ、注目された水準である 41,777 ドル(5/15 安値)を下回りました。これにより最初の弱気トリガーが発動、第(2)波リバウンド終了および第(3)波下げトレンド開始を示唆しています。

引き続き上値試しが続くなら―その可能性は低下していると思われますが―24 年高値からの下げに対する 76.4%-78.6%戻り[43,076 ドル-43,262 ドル] を試すことになりそうです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)・カウント)

4910(4/8 安値)からの第(2)波は目先的にも終わり、第(3)波による下落が始まるでしょう。

関税協議で米中が(暫定)合意したのは 5 月 9 日。その前日(8 日)の高値は 5720 です。今後 5720 を終値で下回る動きがみられれば、それは米中合意のサプライズでの上昇分すべてを打ち消すことを意味し、最初の弱気トリガーが発動します。

来る第(3)波の下落スケールは、第(1)波と同程度(1293 ポイント)か、(順当なら)より大きなダイナミックなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

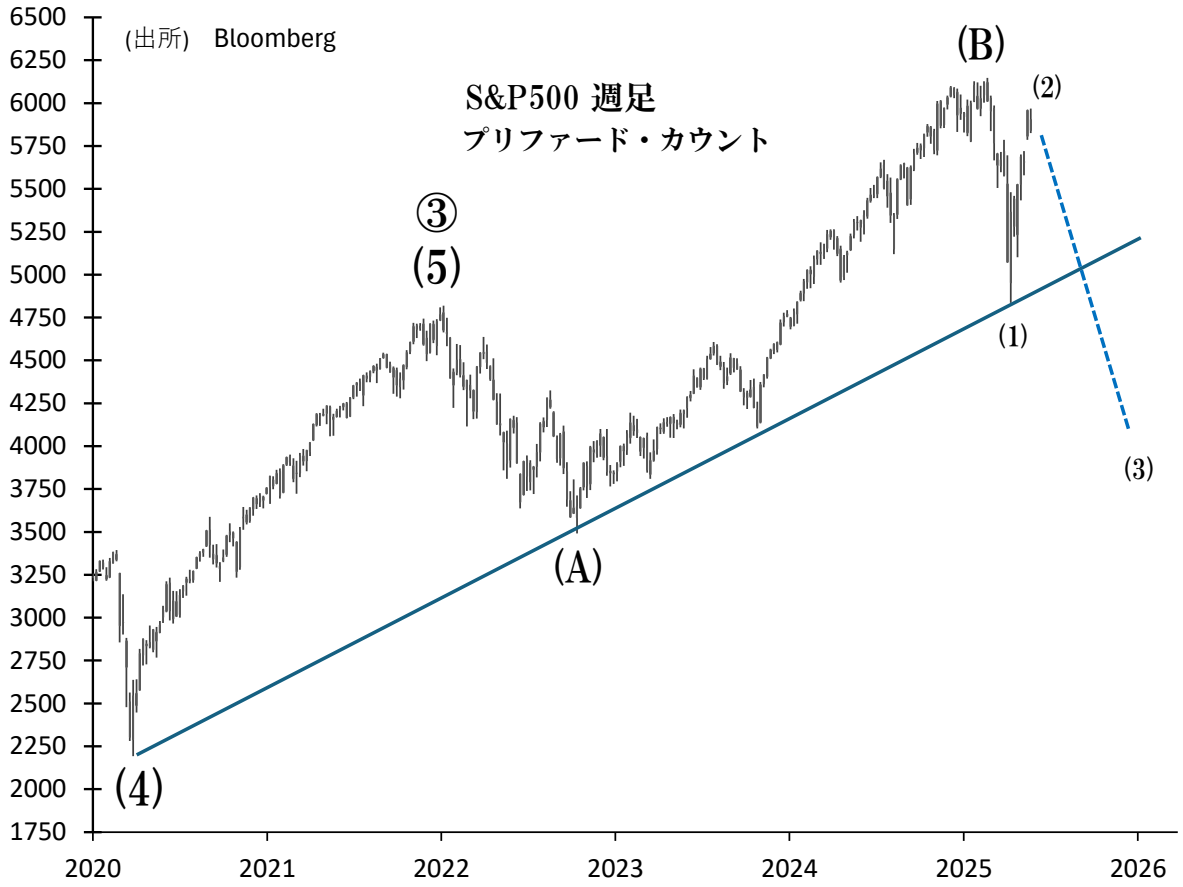
2020 年底からの五波構成中、今年 1 月からは第 4 波の調整局面です。

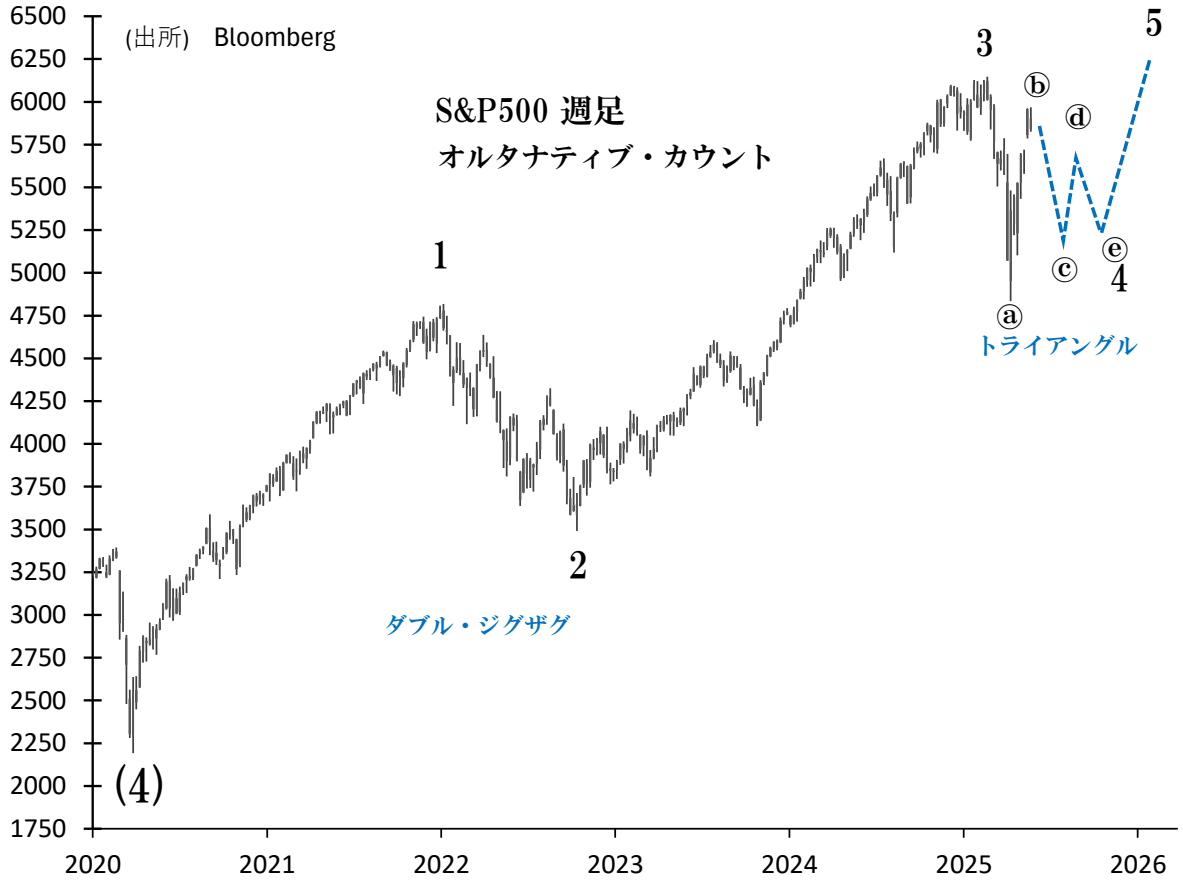
第 2 波(21 年末～22 年 10 月)が「ダブル・ジグザグ」だったことから、第 4 波は「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造になるでしょう(オルタネーション)。

試みに「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中ⓑ波です。まもなくⓒ波の下げに入りますが、それはⓑ波上昇分の 60%～70%を打ち消すでしょう。

これは弱気相場に入る前、最後の上昇第 5 波の可能性を残すシナリオです。

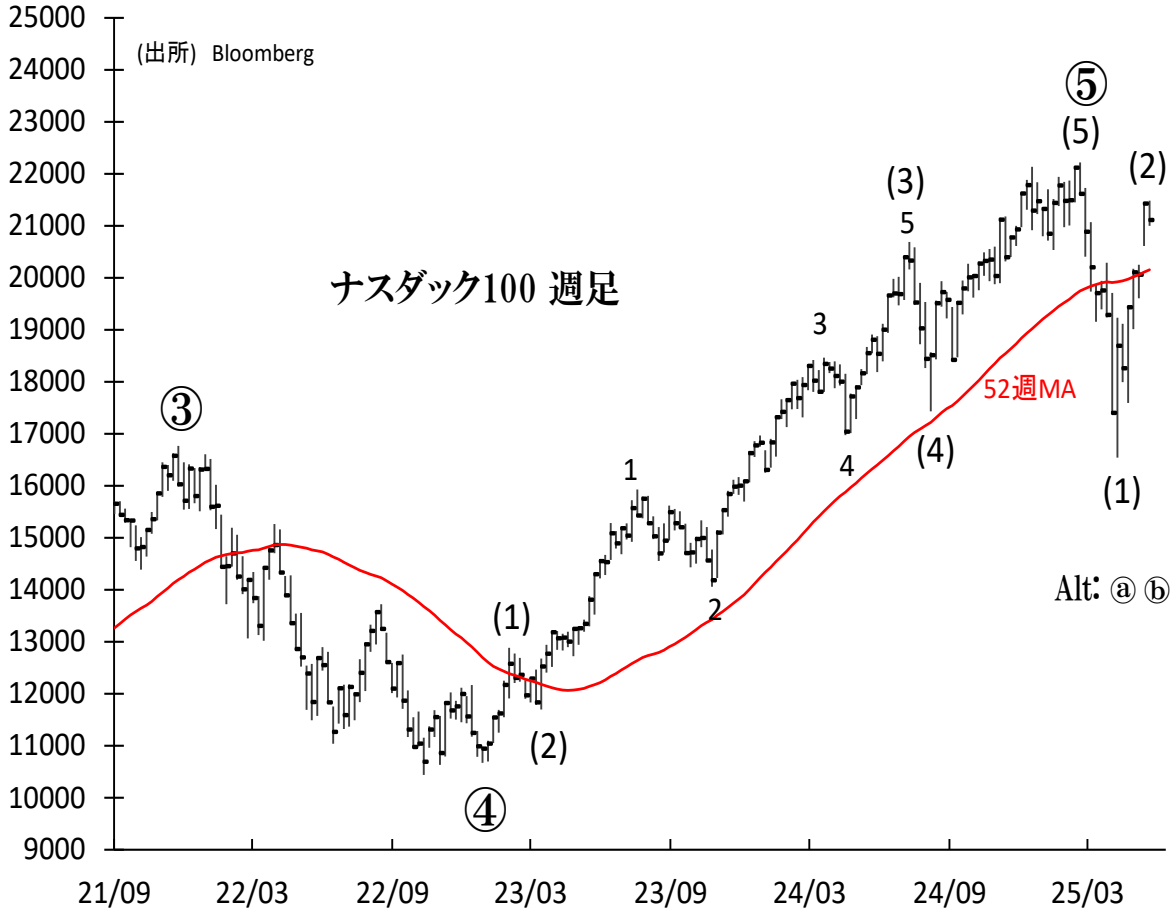
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ナスダック



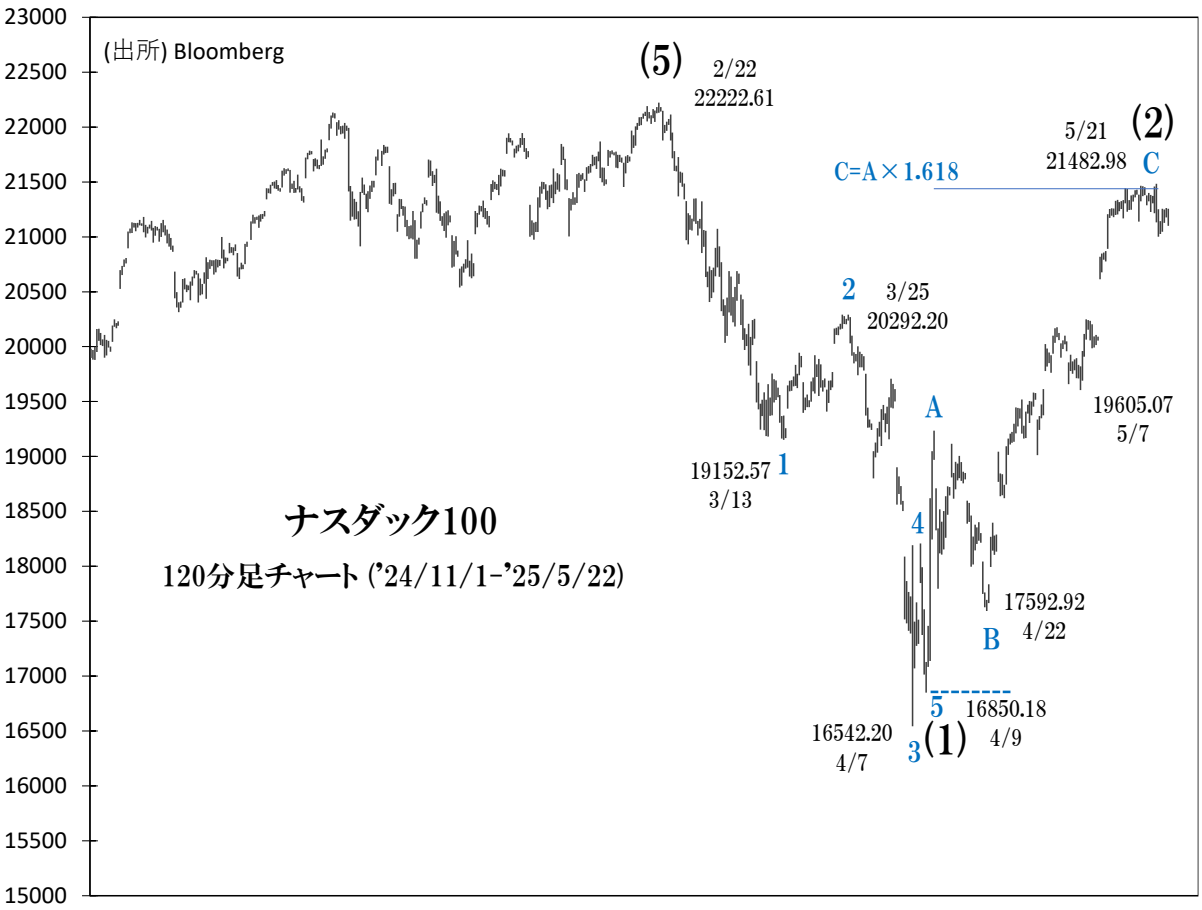
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値（22,222）以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数はほぼ「全値戻り」となっています。これら二つの指数は近いうちに、1 月高値と現行の第(2)波を以て「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので―前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感はありますが―ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えるでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

16,850(4/9 安値)からは第(2)波リバウンドが進行中とみられ―第(1)波の下落トレンドにおいて第 5 波は短縮されました―そのパターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

直近高値 21,482(5/21)は、A 波と C 波が 1:1.618 のフィボナッチ比率になる水準[21,449]を達成するものでした。今のところ確信は高くありませんが、第(2)波は終わったかもしれません。

第(3)波による下落がスタートする可能性があります。
[20,249](5/8 高値)を終値で下回ると、第(3)波入りの最初のトリガーが発動します。

米 30 年債利回りが 1 年 7 カ月ぶり高水準

5 月 22 日、米議会下院がトランプ減税の延長を含む法案を可決。財政赤字の拡大が警戒され、超長期債は売りが優勢となりました。米 30 年債利回りは一時 5.15%まで上昇し、23 年 10 月以来約 1 年 7 カ月ぶりの高水準を付けました(終値は 5.04%)。
近いうちに 30 年債利回りは終値でも 5.11%を上回り、07 年 6 月(金融危機前)以来の高水準を付けるでしょう。そんな金利上昇は株式にとり明らかに逆風と思われます。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円

【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)からⓍ波「円高局面」が進行中です。このⓍ波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

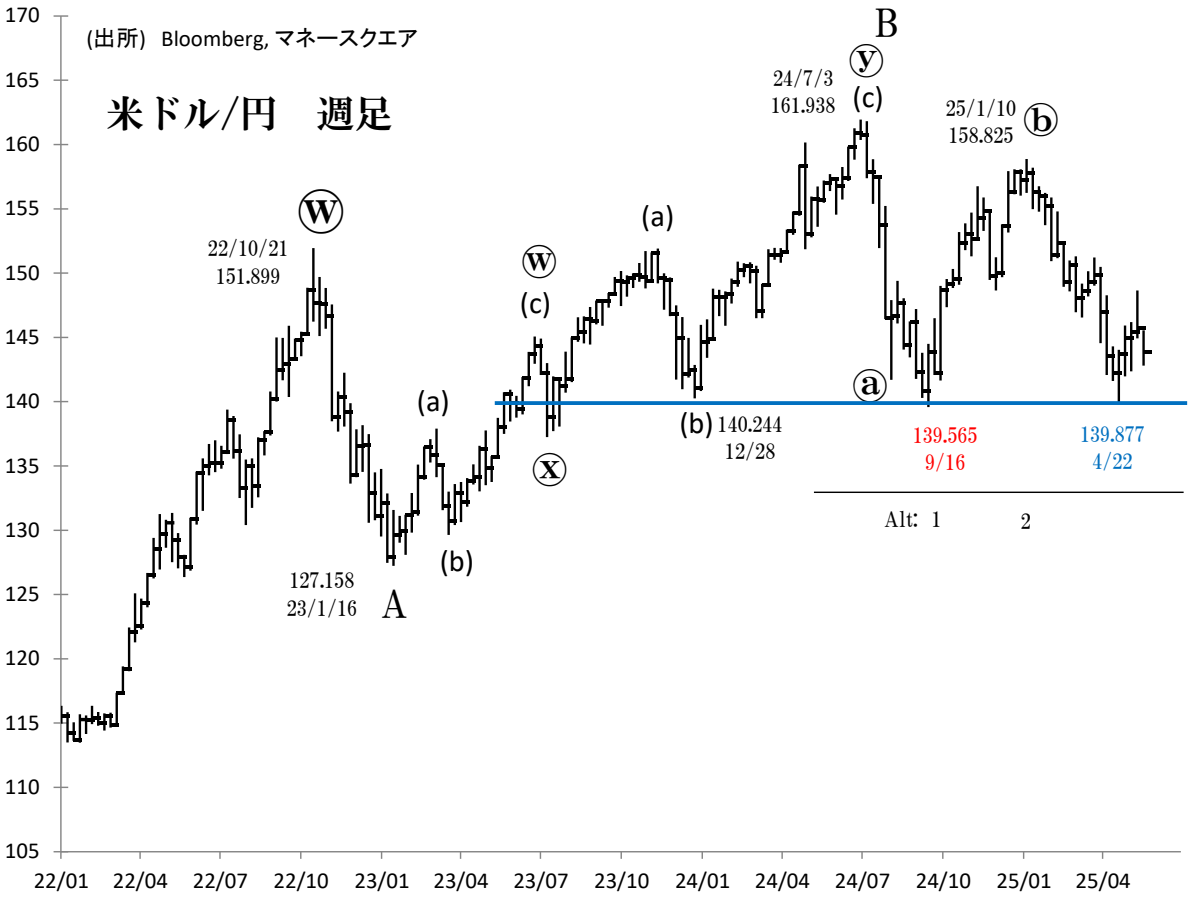
22 年 10 月以来のⓍ波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクスパンディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.680 円(5 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め―上述したセンターラインで底入れせずに―フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試す展開もありそうです。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.050 円(5 月)です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



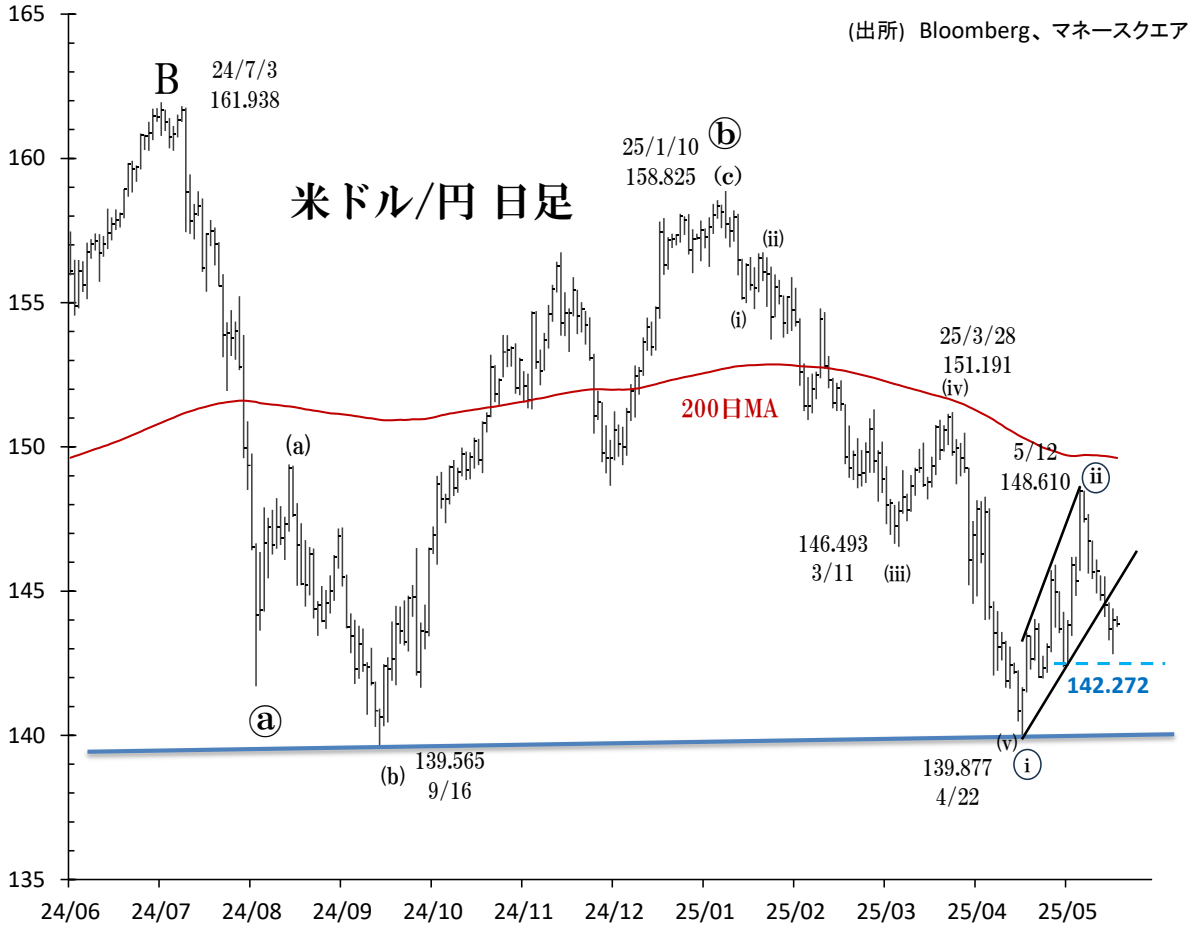
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。C 波は（先ずは）三波構成（ⓐ-ⓑ-ⓒ）が想定され、158.825 円(1/10)からⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を第 3 波に位置付けることもできます。このサブシナリオによれば、先々1ドル＝120 円試しも視野に入ります。

139.877 円(4/22)からのリバウンドは終わったか、終わりつつあります。
遠からずヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインをブレイクするかもしれません。そうなると円高基調は一段と鮮明になるでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足 エリオット波動分析】

4 月下旬以降、上向きの拡大三角形を形成していましたが、足元でパターン下辺を下回っています。148.610 円(5/12)を以て、ii 波によるリバウンドは終わった可能性があります。

目先的には 142.272 円の節目に注目しています。同節目を下回ると、139.877 円(4/22)を試す展開になるでしょう。

139.877 円をブレイクすると、ドル/円下落基調が強まるでしょう。

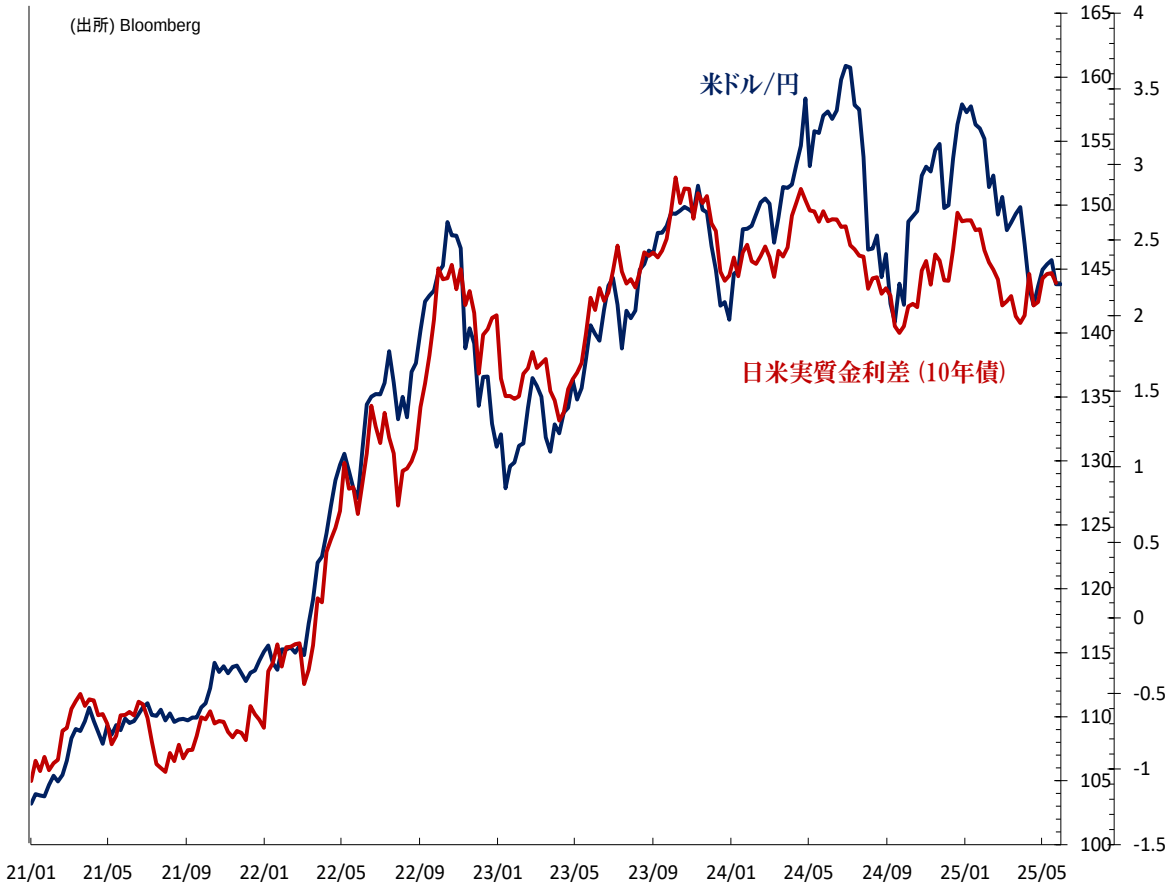
金利差からのドル/円推計値

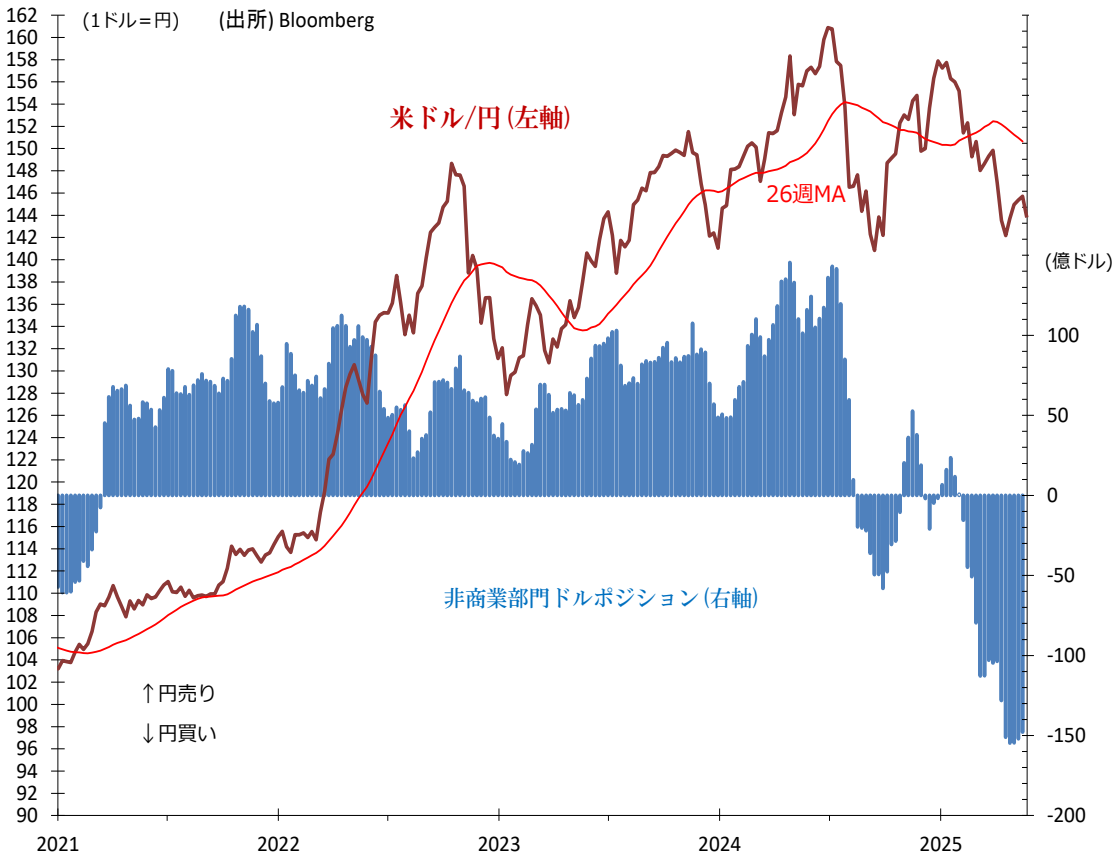
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.248 円]です。

投機筋の円買い持ち高が縮小(2025 年 5 月 13 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 155.1 億ドルから 146.0 億ドルへ前週に続き縮小しました。

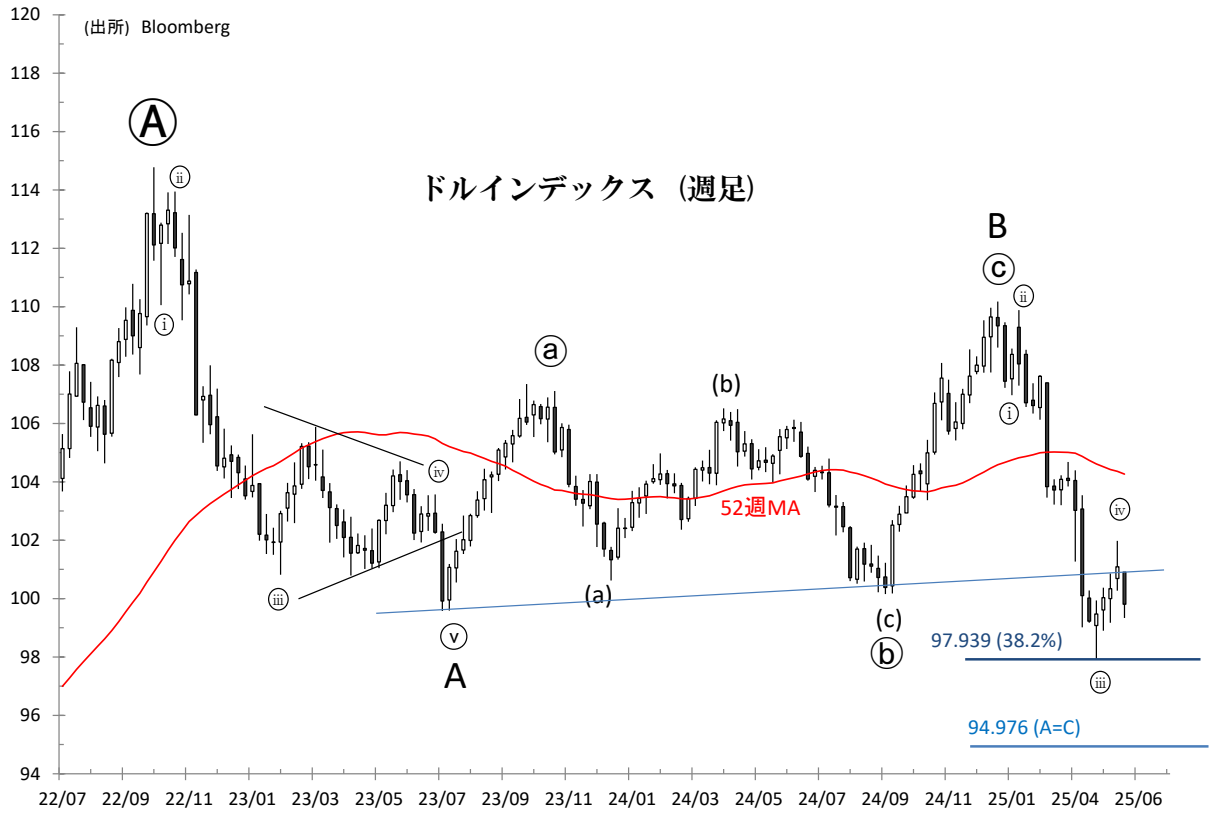
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ドルインデックス（ドル指数）



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は 4 月 21 日安値（97.921）を以て、フィボナッチ・サポート[97.939](08 年からのドル高に対する 38.2%戻り水準)をちょうど達成しました。そこからは、C 波中マル iv 波によるリバウンドとみています。

マル ii 波がジグザグだったことから、マル iv 波は保ち合い相場となりやすいでしょう。保ち合いの後には、C 波中マル v 波のドル安基調が再開し、4 月安値を下回るでしょう。さらには[94.976](A=C)を試す可能性があります。

一方、C 波自体が終了している可能性もあります。
この場合、22 年からの A-B-C ジグザグは完成し、それに続く(X)波に入ったとみられます。この見方に基づくと、ドル指数は当面 52 週 MA を試し、さらにそれを上抜く可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.